

Japanese A: language and literature – Standard level – Paper 1
Japonais A : langue et littérature – Niveau moyen – Épreuve 1
Japonés A: lengua y literatura – Nivel medio – Prueba 1

Friday 8 May 2015 (afternoon)
Vendredi 8 mai 2015 (après-midi)
Viernes 8 de mayo de 2015 (tarde)

1 hour 30 minutes / 1 heure 30 minutes / 1 hora 30 minutos

Instructions to candidates

- Do not open this examination paper until instructed to do so.
- Write an analysis on one text only.
- It is not compulsory for you to respond directly to the guiding questions provided. However, you may use them if you wish.
- The maximum mark for this examination paper is **[20 marks]**.

Instructions destinées aux candidats

- N'ouvrez pas cette épreuve avant d'y être autorisé(e).
- Rédigez une analyse d'un seul texte.
- Vous n'êtes pas obligé(e) de répondre directement aux questions d'orientation fournies. Vous pouvez toutefois les utiliser si vous le souhaitez.
- Le nombre maximum de points pour cette épreuve d'examen est de **[20 points]**.

Instrucciones para los alumnos

- No abra esta prueba hasta que se lo autoricen.
- Escriba un análisis de un solo texto.
- No es obligatorio responder directamente a las preguntas de orientación que se incluyen, pero puede utilizarlas si lo desea.
- La puntuación máxima para esta prueba de examen es **[20 puntos]**.

次のテキストの中から**一つ**選んで、分析しなさい。文脈、読者層、目的、及び形式や文体の特徴の重要性についても言及しなさい。

テキスト1

No. 2997

2011年2月3日（木）放送

働くのがこわい 新たな“ひきこもり”



放送の一部をご覧いただけます。



出演者

池上 正樹 さん
(ジャーナリスト)

- “ひきこもり”の長期化、高年齢化が止まらない。去年内閣府が行った調査によると、ひきこもりの人は全国に70万人いるとも言われており、その過半数が30代を占め、しかも、就労経験や、就職試験をきっかけにひきこもった人たちだという。“ひきこもり”の人たちが社会復帰を望んでも、ひきこもっていた期間により生まれる履歴書の空白や、社会経験の不足が自立への道を阻む。社会への出口が遠のく一方で、深刻な課題は彼らを支える親の高齢化だ。親の年金を頼りに生活するひきこもりが増える今、親亡き後をどう生き残るのか、社会に出る手立てはあるのか、課題に直面しているひきこもりの今を取材する。
- 5
- 10
- 15

出演者の発言

番組中の出演者のコメントを掲載

出演者

池上 正樹さん (ジャーナリスト)

● “ひきこもり” の人たちの心情

20 >>まず一つは、ひきこもる人たちの多くは、社会には出たいと思っているんですね。ところが今、非常に厳しい雇用情勢で、ちょっと休んだつもりが、戻れないようなシステムになっているというのが一つ、大きくあると思うんです。やはり本人たちの中にも、非常に目標が高すぎて、今、自分の置かれた現実とのギャップが埋められないとか、やはりこうなってしまったのは、自分のせいだという罪悪感を持ってしまって、別に親が悪いわけでも、社会が悪いわけでもない、すべて自分の問題であるというところで、どうしていいか分からなくなって、誰にも相談できない中で、孤立して、ずっとひきこもる時間がずっと過ぎていくというのが現実だと思いますよね。まじめでプライドが高かったりとか、あとは、非常に他人に気遣う人が多い傾向、印象がありますよね。非常に気遣ってしまうので、そういうコミュニケーション、そういう会話の中でも非常に疲れてしまって、それでまた怖くなっていく、それが時間がたてばたつほど怖くて、出れなくなる一因にもなっているということだと思います。

(略)

● “ひきこもり” 増加の社会的意味

35 >>やはり30代の方がこれだけ多いのは、非常に社会的な損失にもなっていますし、このデータから分かるのは、35歳から39歳が最も多いということを考えて、40代以上の統計が取られていないんですけれども、相当数いるのではないかということが推測できるわけですよ。ですから、70万人以上の人たちが、存在しているんじゃないかということもいえると思いますね。ほとんどの人たちが、地域の中で孤立をしていて、声をあげられない。声をあげたら誰かに迷惑がかかるんじゃないかということで、あげられずにいる。そういう人たちに今すぐでなくてもいいので、1年かけてでも、2年かけてでもいいので、声をあげてほしい。助けてほしい、SOSを出してほしいということだと思いますね。またそれを周りのほうもただ話を聞くだけではなくて、そういうひきこもりに特化した専門家を育成して、きちっと道筋を社会にどうやったらつなげるのかという道筋を示してあげるといったことがとても大切なんじゃないかなと思います。

www.nhk.or.jp (2011)

- このテキストにおいて、文体・形式はどのような役割を果たし、どのような効果を生み出しているのか述べなさい。
- このテキストが社会に伝えたいことは何か、またその意図は何か、論じなさい。

Turn over / Tournez la page / Véase al dorso

テキスト2

25

他にも若年失業率の高い国はあるのに、なぜ、イギリスであれだけの暴動が発生したのだろうか。一つの可能性は、他の年齢層との失業率の格差である。二十四歳以下の男性失業率が二十五歳以上の男性失業率の何倍か、という数字をみてみよう。EU平均が二・六二倍の中で、イギリスは約三・四倍と失業率の年齢間格差が大きい国である。EU主要国の中で、イギリスよりも年齢間格差が大きい国は、四・五倍のスウェーデン、四・四倍のイタリア、三・四倍のノルウェーである。フィンランド(三・三倍)、ギリシャ(三・〇倍)、フランス(二・九倍)も失業率格差が大きい方の国になる。主要国で最もこの倍率が低いのはドイツ(一・五倍)で、日本は二・一倍とオランダやアメリカの二・三倍よりも格差は小さい。(略)

30

¹ リーマンショック：二〇〇八年にアメリカの投資銀行リーマン・ブラザーズが破綻して世界的金融危機の引き金になったことを呼ぶ表現

² 団塊世代：第二次世界大戦直後に生まれた世代、日本において第一次ベビーブームが起きた時代に生まれた世代

イギリス暴動の原因は 若者の高失業率だけではない

経済学者 大竹文雄

5 八月六日の夜からロンドンで始まった若者の暴動は、イギリス各地に広がり、逮捕者は一三〇〇人を超え、深刻な事態になった。大規模な暴動になった背景には、若年失業率の高さがあるだろう。イギリスでは、二十五歳未満の若者の失業率は約二〇%にまで高まっていた。若者の失業率がリーマンショック以降、高止まりしていたことに加えて、財政支出削減のための様々な改革も影響しているのかもしれない。

10 ところが、同じように若者の失業率が一〇%程度まで上昇して、就職氷河期となっている日本では、若者が暴動を起こすということはない。そうした状況を見て、団塊世代²の中には、今の若者はおとなくなつたと嘆く人もいるようだ。では、なぜ日本の若者は、これほどの状況に追い込まれても、暴動とまでは行かなくても、政治的な運動を起こさないのだろうか。一つには、人数が少ないため、政治的な運動をしても、団塊世代の政治力に負けてしまう、と諦めていることもあるだろう。

15 もう一つの可能性は、労働市場と家庭形態のあり方の違いが、日本とイギリスの若者の対応の違いをもたらしていることである。この点を考えるために、ヨーロッパ各国の二十四歳以下の若年男性の失業率の水準を比べてみよう。イギリスの二一・五%という若年失業率は、ヨーロッパの中で必ずしも高い方ではない（二〇一〇年。出所 Eurostat）。最も高いのはスペインの四三%であり、二七%のポルトガルやイタリアもある。フランスも二三%、ドイツは一〇・九%。日本は一〇・六%である。

20

大竹文雄『中央公論』2011年10月号 より抜粋

- このテキストにおいて、文体表現や構成にはどのような工夫が見られるか述べなさい。
- 読み手によってこのテキストの解釈がどのように異なるか、論じなさい。